

HAMAMATSU

APOLLO ELECTRIC CO.

アポロ電気株式会社

パワーエレクトロニクスでチャレンジ

トランス・コイル 高電圧トランス・電源ユニット
スイッチング電源装置 充電器
デジタルシステム機器 医療機器

〒438-0004 静岡県磐田市勾坂中1600-11
TEL.0538-38-2228 FAX.0538-38-2898
E-mail:sales@apollo-elec.co.jp URL: http://www.apollo-elec.co.jp

EV・HEV 駆動システム技術展
(EV JAPAN)

出展ブース 東8-38

タッチパネル制御
(EV用電池急速充電器)

電気安全の知識と経験で
EV技術に対応します。

EV関連製品の規格開発と適合性評価サービス

充電器

充電ステーション
ケーブルセット

車載部品

電池 (EV・LEV)

株式会社 UL Japan

〒516-0021 三重県伊勢市朝熊町 4383-326 T: 0596-24-6735 http://ul.com/jp

UL

SHIZUKI

EV・HEVインバータ回路の
省エネルギー・省スペース化に貢献！
シヅキEV・HEVインバータ平滑用フィルムコンデンサ

業界最高水準の低ESRと低ESLを実現。
耐電圧性能をさらに向上させた小型・軽量設計。
シヅキのものとづくりと複合化技術の融合で、最適な
カスタマイズ商品をタイムリーにお届けします。

EV・HEV 駆動システム技術展
(EV JAPAN)

小間No. 東5-22

電子回路、家電機器、自動車、産業機器（電鉄車両、鉄鋼）など多くの市場に変種変量でお応えします。

電気二重層コンデンサ (FARADCAP)

インバータ回路用

雑防用

低抵抗
大容量セル

高信頼性
高耐湿性

小型
低コスト

低抵抗、大容量セルの採用で、用途に合わせた
モジュールを提案します。

耐湿、耐振性など、過酷な条件にも対応した商
品を提案致します。

コネクター一体型コンデンサは、独自のシンプル
構造（特許取得）により小型、低コスト化を実現。

本 社 〒662-0867 西宮市大社町10-45 TEL.0798-74-5821 FAX.0798-73-0807
東京支店 TEL.03-5473-3911 札幌営業所 TEL.011-884-5818 広島営業所 TEL.082-225-0616
関西支店 TEL.0798-70-3921 仙台営業所 TEL.022-297-2608 福岡営業所 TEL.092-523-0551
中部支店 TEL.052-781-3921 日立営業所 TEL.029-222-5630

安川電機は電気自動車をはじめとしたさまざまな用途に最適なモータードライブシステム「QMET-II（クメット・ツー）」を開発、4月からサンプル販売、13年4月から量産販売する。同システムを今回のEV JAPANに展示する。

「QMET-II」は広い出力範囲を確保し、高効率運転が可能であることから、電動車両の実用領域での電費向上に効果を上げる。また徹底的な標準化と共通化を実現し、標準的な機能・性能を備えた標準タイプと個別の要求仕様に対応するセミカスタムタイプを準備している。

このほか、急速充電機能に加え、スタンド上部のフリースペースを利用して、デジタルサイネージなどの設置が可能なEV用急速充電器「Enewell-CEV」も展示する。

翔栄は車載用タッチパネルの開発・製造のトップメーカー。独自開発したガラスノガラス方式タッチパネルの量産化を確立、新たな電子部品として特に自動車メーカーの車載用純正タッチパネルでは多くの実績と高い信頼を得ている。常に「2年先のスタンダードを今に提供する」をテーマに、各方式のタッチパネルの開発に加え、精密加工分野の技術力も高めて、創造性と専門性を生かした製品を提案している。

今回の国際カーエレクトロニクス技術展では、静電容量式タッチパネル、抵抗膜式タッチパネル、光学式タッチパネル、参考出品で静電容量と感圧センサーのハイブリッドタイプのタッチパネルを出品する。また車載用だけではなくデジタルサイネージなど、生活のあらゆるシーンで活躍するタッチパネルの提案を紹介する。

アポロ電気は1968年創業の電源システムメーカー。培った技術力を元に近年開発したEV用蓄電池用急速充電器やEV用充電器、非常用電源を出品する。

EV用充電器は鉛電池用、リチウムイオン電池用、急速充電対応の3種を展示。会場ではブースにEVを持ち込み、充電を実演する。急速用充電器はタッチパネル方式で、高い操作性を持つ。充電時間は鉛電池で80%放電時に約1時間半。またデータ通信機能を内蔵しているの、パソコンにたき充電特性表示などのデータ管理が可能だ。

さらに新製品の非常用電源は鉛電池を使用しているの、コストはリチウムイオン電池用の約半分。一般家庭の100%電源で充電でき、およそ500時間の電力まで使用可能。

UL Japan

自動車のEV化、LEV（軽電気車両）化は大きな注目を浴び、その急激な普及が確実に見込まれる状況となった。新たな社会インフラシステムを作り出し、家庭の蓄電システムとしての使いやすさ、我々の生活を変えていくと思われる。一方、火災や感電など、EVの安全性確保、維持はユーザーの広さを考慮すると大きな課題になる。

ULは1990年代からEV関連製品の規格開発を始めており、それら規格に基づいた試験、認証サービスを提供している。日本法人のUL JapanではEV関連製品についての試験、認証サービスを紹介し、また、いろいろな質問、疑問に対応する。展示会初日の18日には、北米を中心としたEV・充電インフラの安全規格とULのサービスと題した出展セミナーを開催する。

指月電機製作所は「電気エネルギーのマネジメントを通じて省エネ環境共生に貢献する」のテクノロジーをテーマに、地球環境と調和した社会を実現する同社の商品群を紹介する。

「EV・HEVインバータ平滑用」「DC-DCコンバータ用」「雑防用コンデンサ」を展示し、ユーザーの要求、使い方に最適な商品提案を可能にする低インダクタンス技術と

指月電機製作所は「電気エネルギーのマネジメントを通じて省エネ環境共生に貢献する」のテクノロジーをテーマに、地球環境と調和した社会を実現する同社の商品群を紹介する。

「EV・HEVインバータ平滑用」「DC-DCコンバータ用」「雑防用コンデンサ」を展示し、ユーザーの要求、使い方に最適な商品提案を可能にする低インダクタンス技術と

また、「組込みシステム技術ソリューション」では基本ソフト（OS）、ECUソフトウェアから、マイコンユニット装置や、ECU

EV・HEV 駆動システム技術展

昨年3月に発生した東日本大震災、その影響でエネルギー危機も発生した。電気自動車（EV）やハイブリッド自動車（HEV）は環境負荷の低減だけでなく、万が一の大きな自然災害発生時に蓄電池としての役割を果たすことができるソリューションとしても、その技術開発に期待が寄せられている。

EVやHEVのコアとなっているのがモーター、インバーター、それらに次電池と言った技術だ。「EV・HEV駆動システム技術展（EV JAPAN）」は「モーター・インバーター・駆動システム」「二次電池」「部品・材料」「試験・計測・シミュレーション」の6ゾーンを展開される。インホイールモーターシステムから、磁石、電磁鋼板、コア、ブラシ、シャフトなどの素材や部品にいたるまでの最新動向を知ることができる。

また、EV産業界に参入を検討しているベンチャー企業にとって、最大の悩みは研究開発拠点などの用地の確保といえる。中小企業基盤整備機構（中機機構）では、地方

また、さらなる燃費向上を目指して、メーカー各社では自動車と自動車

出展社による製品・技術セミナー

EV産業界はまだ始まったばかりだ。ベンチャーをはじめ、異業種からも参入できる可能性がある市場といえる。こうした中、オートモティブワールドは「専門技術分野」や「出展社による製品・技術セミナー」のプログラムも充実している。18日13時40分からのEV JAPAN出展社セミナーで、ULジャパンが主催する「北米を中心としたEV・充電インフラの安全規格とULのサービス」なども注目すべきセミナーだ。

また、EV産業界に参入を検討しているベンチャー企業にとって、最大の悩みは研究開発拠点などの用地の確保といえる。中小企業基盤整備機構（中機機構）では、地方

YASKAWA

次のドライブは、電気自動車。

産業用ドライブのスペシャリスト安川電機は、
次は電気自動車へと動き出します。
独自の電子式巻線切替技術を搭載したモータードライブシステムQMET-IIは、
1つのモーターで低速用と高速用モーターの特性を持ち合わせ、
電気自動車に求められる広い定出力範囲を確保し、実使用領域での電費を大幅に向上。
さらに標準化とセミカスタム化を追求したQMET-IIは、
電気自動車の普及を加速させていきます。

展示会案内

東京ビッグサイト
安川電機小間番号
東3ホール 4-38

QMET-II インバータ

QMET-II モーター

安川モータードライブシステム
QMET-II

電動連機

電動農機

電気自動車

電気推進船

コンプレッサ

ファン

株式会社 安川電機 http://www.yaskawa.co.jp
インバータ事業部 電気駆動システム事業統括部 TEL 0930-23-5184